

## アスリートの人生と時代状況の関係に関する考察

### モハメド・アリの生涯を中心として

A Study based on the Relationship between an Athlete's Life and the  
Circumstances of the Times

—Based on Muhammad Ali's Lifetime

1K06B220

指導教員 主査 石井昌幸先生

元重 茉莉奈

副査 寒川恒夫先生

#### 【はじめに】

アトランタ大会の開会式で「モハメド・アリ」を観ていた私は、彼が単に過去のオリンピックのメダリストとして最終聖火ランナーに指名されたのだと考えていた。しかし、歴史を学ぶにつれて、彼が選ばれた背景には、もっと深いもの、アメリカという国の現代史と切り離せないストーリーがあったことを知った。ジョージア州アトランタは、キング牧師の生まれ育った地であるとともに、黒人解放運動の盛んだった地である。そこで開かれたオリンピックで、「モハメド・アリ」が聖火の最終ランナーを務めることには、非常に大きな意味があったのだ。そこで本研究では、一人のアスリートが、人種や宗教によってそのアスリート人生を左右された例として、この「モハメド・アリ」を取り上げ、彼の生涯を、スポーツと時代状況との中に置いて考察していくことにする。そうすることによって、なぜ「モハメド・アリ」がアトランタ・オリンピックの最終聖火ランナーに選ばれたかを考えていきたいと思う。

#### 【第1章】

第1章では、ボクサーとしてのキャッシュ・クレイについて述べる。幼少期の彼について、ボクシングとの出会い、そしてアマチュア時代を辿っていく。さらに彼は、ローマ・オリンピックで金メダルを獲得する。そしてプロ・ボクサーになるまでの輝かしい時代やプロ・ボクサー

になってからの時代を経て、ソニー・リストンと対戦し、世界王者になるのであった。

#### 【第2章】

第2章では、ボクサーとしての彼の一面とは違い、人種問題とヴェトナム戦争の徴兵拒否について取り上げる。ブラック・ムスリムへの信仰と、そこにおいてのエライジャ・ムハンマドとマルコムXとの関わりについて述べている。ブラック・ムスリムに、次第に信仰心を深めていく中で、彼はヴェトナム戦争への徴兵を拒否する。そしてその徴兵を拒否したことにより、ボクシング・ライセンスを剥奪され、ボクシング界から追放されてしまう。しかし、追放されている間にも彼は自分の信念を貫き、さまざまな人びとに影響を与えていった。

#### 【第3章】

第3章では、時代の変化によって、再びボクシング界に復帰するまでを述べている。3年半というブランクを経て、以前と戦い方が変わったものの、彼はジョージ・フォアマンと対戦し、王座を取り返すのであった。キンシャサの奇跡と呼ばれたその対戦の勝利は、彼をボクシング界の英雄に返り咲かせたのであった。彼の勝利を喜び、会場中に「アリ、ボンマイエ」という声が響き渡った。

#### 【おわりに】

引退後に、彼はパーキンソン病に冒される。そしてアトランタ・オリンピックの最終聖火ラン

ナーとしての使命を授かる。予期せぬ人物の登場に会場は沸いたのであった。長年人種と宗教の問題と葛藤していた彼は、平和の象徴である大会の中にいた。モハメド・アリの生き方は、黒人社会のみでなく、時代の流れ共に人々が互いに平和に共存していくための道しるべとなったと思う。宗教は人種の問題はこれから先も常に存在する問題だろう。しかし、モハメド・アリのように信念を貫き、この問題に立ち向かうことで、世の中は変化していくことができるだろう。